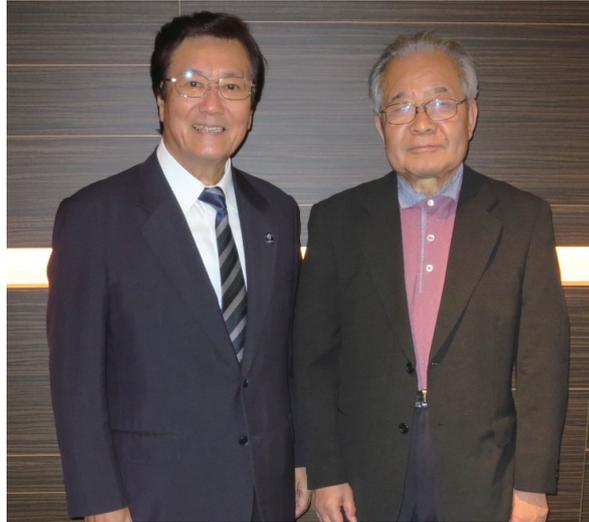




No.328 平成28年7月15日発行
 発行・編集 連合駿台会
 発行人 広報委員長・齋藤柳光
 編集人 事務局・矢嶋まゆ子
 〒101-0052千代田区神田小川町三十二
 明治大学「紫紺館」内
 電話 (〇三) 三二九六一四七七
 印刷 有限会社 美創



山口前会長(右)と田村新会長

第六十二回連合駿台会総会を開催

第六十二回連合駿台会の通常総会が、平成二十八年五月二十日、明治大学「紫紺館」三階会議室で開催されました。

開会に先立ち、先年度亡くなられた方々に黙祷が捧げられた後、山口政廣会長は開会

を宣言し、規約の第五章・第十三条に従い、会長が議長となり、上西紘治専務理事の議事進行により、議案の審議が進行されました。

○第一号議案

平成二十七年事業報告書、収支計算書、正味財産増減計算書、貸借対照表・財産目録の報告、ならびに監事による監査報告承認の件

▽平成二十七年の事業報告(①例会・総会、②理事会、③その他(特別行事(ビジネス勉強会、若手の会・オーブンゴルフコンペ・新入会員歓迎会・宝塚「宙組公演」観劇と美味晚餐)・正副会長会・運営委員会・各委員会)、④会報発行、⑤会員状況)について、上西専務理事から報告があった。会員数については新入会員が十八名、退会会員が十七名(故人八名を含む)でほぼ同数だったが、休会会員が六名増えたことで、昨年度末と比べると五名の減少となった。

▽平成二十七年の収支計算書・正味財産増減計算書・年度末貸借対照表・財産目録につ

いても、引き続き上西紘治専務理事より以下の報告・説明があった。

・「収支計算書」については、まず「収入の部」では、当期収入総額は1695万7822円で、年会費収入1427万2676円、予算額1475万円・対予算比九六・八%、例会費収入199万2000円(予算額234万円・対予算費八五・一%)、広告費収入68万円(予算額80万円・対予算費八五・〇%)等で、すべて予算を下回った。

・「支出の部」では総務費関係は558万9900円(予算額547万・対予算比一〇二・二%)でわずかにオーバーしたが、事業費の各委員会運営費では、総務・事業委員会費が685万4139円(予算額630万円・対予算費一〇八・八%)、広報委員会費218万3640円(予算額214万円・対予算費用一〇二・〇%)だったが、五委員会の総額では1178万4517円で、予算額1214万円に対し、対予算費九二・一%、約35万円の黒字だった。その他慶弔費も合わせ、当期支出合計は1755万3017円となり、59万5195円の赤字となった。赤字になった要因は、例会費収入のマイナスが大きいと思われるので、次年度は①会費無料になっている総会の会費を徴収

する、②唯一の昼例会である九月の例会も夜開催として、出席しやすくする、などを検討している。

・「正味財産増減計算書」については、一般正味財産増減の部に当期収支差額分が加算されるので、今期の残高は4180万1762円となった。これに有志正味財産1800万円を加えた5980万1762円が正味財産期末残高になる。「貸借対照表」では、「資産の部」が小口現金・みずほ銀行普通預金・ゆうちょ銀行普通預金・みずほ銀行定期預金・MMF・電話加入権を合計して6041万1932円、貸方「負債・正味財産の部」には「源泉預り金」、および、本来なら昨年度中に払われているべき大学支援委員会の寄附講座分が実際には四月六日に支払われたので、実態に合わせて「未払金」として計上したので、結果、合計額は一致している。普通預金では、みずほ銀行はよく使っているが、ゆうちょ銀行は全然動きがなく、資金運用という意味では、今後検討する余地があると思われる。

▽監査報告（野口昌宏監事）

これらについて、規約第六章・第十八条の規定に基づき、五月十七日付で野口昌宏監事・二宮充子監事が監査をした結果、会務の執行は当会の規約に従い、総会並びに理事

会の決議に基づき誠実に行われており、一般会計はいずれも適正に処理されており、計算書類は本会の収支及び財産の状況を正しく示しているものと認められた。

第一号議案については、全員異議なく承認された。

○第二号議案

役員改選の件

今年度は改選期に当たするため、三期六年会長を務めた山口会長が退任し、田村駿新会長に交代するという説明がまず山口会長からあり、これに伴い、次のような役員改選を提案したという説明が続いた。

副会長も大所高所からご意見を伺う正副会長を構成しているのので、若干補充し、水江博氏、栗原権右衛門氏、中川敏洋氏、山本良一氏、西澤豊氏、池田一義氏、杓掛英二氏に新しくお願いした。

総務・事業委員会は、河村博委員長、副委員長に山田朝彦氏、杉浦伸二氏が新任、新しい担当委員として、大野正美氏、室井恵明氏、鈴木隆志氏は組織・会員増強委員会からこちらの委員会に移っていただいた。組織・会員増強委員会は、大原委員長は大学の理事就任に伴い顧問に移られ、新委員長に高澤徹氏、新副委員長には佐藤仁氏、潮田伊佐夫

氏、新しく担当委員として長谷川進一氏、松崎優子氏、関根均氏、栢森靖氏、馬場範夫が加わる。広報委員会は委員長・副委員長は変わらず、新担当委員として宮本浩二氏、山口大介氏に新しくお願いした。大学支援委員会は、中川委員長には副会長をお願いしたので、浅井宏新委員長、副委員長には伊原敏雄氏と高橋郁夫氏、担当委員として富水流孝二氏、青木幹則氏、安達明正氏に加わっていた。財務委員会は谷慈義委員長が昨年亡くなられたので、代行をお願いしていた坂田英夫氏を委員長、小山修氏と徳丸平太郎氏に副委員長、新しい担当委員として当山明彦氏と谷原誠氏にお願いすることにした。委員長は常務理事、副委員長は常任理事、担当委員は理事になっていただく。山口会長は特別顧問に、新しい顧問に村岡健氏、鈴木勝利氏、大原幸男氏が就任された。

※新役員については、十ページの「運営組織表」を参照のこと。

第二号議案については、全員異議なく承認された。

○第三号議案

各委員会平成二十七年度事業報告および平成二十八年度事業計画（案）・活動予算（案）、並びに収支予算（案）承認の件

▽平成二十八年度の連合駿台会活動基本方針

に關しては、昨年一部改正したので、今年度はこの方針を踏襲して進めたいという報告があった（上西紘治専務理事）。

*

▽総務・事業委員会 河村博副委員長

〈平成二十七年事業報告〉

- ① 例会六回（含む総会・駿台懇話会）、理事会五回、正・副会長会一回、運営委員会五回をそれぞれ開催した。

- ② 新規会員の定着・懇親のための事業（ビジネス勉強会、新入会員歓迎会）を開催した。

- ③ 会員相互の親睦会（宝塚観劇&食事会、オープンゴルフコンペ）を開催した。

〈平成二十八年事業計画・活動予算（案）〉

- ① 平成二十八年度年間計画に基づき、前年に引き続き事業を円滑に進める。

- ② 新規会員の定着・懇親のための事業（ビジネス勉強会・新入会員歓迎会）を開催する。

- ③ 会員相互の親睦会（バス旅行等、オープンゴルフコンペ）を開催する。

【活動予算】 630万円

▽組織・会員増強委員会 大原幸男委員長

〈平成二十七年事業報告〉

- ① 委員会の開催…六回

(1)入会審査の実施（新規入会者…二十名

四月になってからの入会者三名）

(2)会員の例会出席率向上のための施策の検討と実施

※若手会の実施…七月

※例会テーブル設定の実施…七月

(3)会員増強活動の推進

※入会者目標二十五名は未達

- ② 活動費実績報告

・新会員定着活動費 13万4100円

・会員増強活動費 0円

合計 13万4100円

〈平成二十八年事業計画・活動予算（案）〉

- ① 委員会の開催（目安…年六回）

- ② 入会審査の実施と速やかな承認手続きの遂行

- ③ 会員の例会出席率の向上策の検討と実施

- ④ 会員増強活動の推進

【活動予算】 30万円

▽広報委員会 斎藤柳光委員長

〈平成二十七年事業報告〉

- ① 会報（第三二一号～三二六号）を、編集

後記のリレー出稿や、各イベントや事業に対応して定期刊行に協力し、円滑

な会の広報活動を展開した。

会のホームページ（HP）の更新を毎月

- ② 一回から二回とし、事後の報告事項から事前の各種イベントや告知にも活用

し、会の紹介も学術賞など年度事業などを更新するにともない、会の紹介内容を適宜差し替え、会員増強などに役立つものとして、会員増強の際などに寄与した。

③ 新年号（第三三五号）における恒例の名刺広告では、「会報等の刊行資金援助」という本来の目的をご理解いただいで協力願った。

① HPの更新をより活性化し、月二回の

アップを目標に、これまで多かつた活動

リポートだけではなく、イベントや各委員会の告知や活動案内をフォロー

する。

② 会の基本方針にも示されている広報活動を

を支援する情報ネットワークづくりを

目指して、活用を許諾していただいた

各会員のメールアドレスをMLなどに

集約して、各種連絡のスピーディー化

を図るなど「メール活用元年」と位置

づけて実用化していくとともに、従来

の郵送等による連絡と有効にリンクさ

せる。

③ 名刺広告は会員への情報提供と相互の交

流に欠かせない機関紙制作費等を補助

する目的であることをさらに認識いた

だいで、収入予算に見合う協力額を満

たせるよう努めていく。

- ④ 入会案内パンフレットを組織等の変更に対応してリニューアルする。

【活動予算】 234万円

▽大学支援委員会 中川敏洋委員長

〈平成二十七年事業報告〉

- ① 学術賞・学術奨励賞は一月二十日の駿台懇話会にて授与。学術賞一名、学術奨励賞二名。

受賞記念講演「クロンプタ研究の再生 医学領域への展開と貢献」好評。

- ② 連合駿台会寄付講座（グローバルフロントーFホール）の春・秋期実施。

・春期（六月四日）青柳勝栄氏（「世界を知り、己を知る」・連合駿台会会員）

・秋期（十一月五日）木下唯志氏（「一日一死」・連合駿台会会員）

- ③ フューチャースキル養成講座（旧産学協同就業力養成講座）の実施。

商学部に加え、経営学部も開講。会員企業五社の協力をいただき、好評終了。

- ④ 「留学生支援」国際連携部とも検討の結果、新年度より「交換留学生」を対象。

- ⑤ ホームカミングデー、お茶の水JAZZ祭、シェイクスピアプロジェクト協賛。

〈平成二十八年事業計画・活動予算（案）〉

- ① 学術賞・奨励賞は研究知財事務室と応募

数をさらに増大対応検討。

- ② 連合駿台会寄付講座は、春・秋期実施予定。

・春期（六月一日）三輪美恵氏（株アトレ常務取締役・成長戦略室長）

- ③ フューチャースキル養成講座は好評にて商・経営学部ともさらに授業拡大の養成があり、現協力企業五社に（株）関電工、共同印刷（株）両社への賛同のもと七社に。

ホームカミングデー、お茶の水JAZZ祭、シェイクスピアプロジェクト協賛。

- ④ 各委員会メンバーによる担当事業のユニットリーダー制を強化推進。

【活動予算】 335万円

▽財務委員会 坂田英夫委員長代行

〈平成二十七年事業報告〉

- ① 当年度中の新規入会者数が十八名となったが、退会者数が十七名、休会者数が六名増え、五名の純減となった。退会者数は昨年と同じ十七名だが、退会届提出者は九名と昨年より減った分、逝去退会者が三名増えて八名となった。

会費未納者数は、三百四十名中二十五名で、会費未納率は七・四%となり、平成二十六年度末の七・七%と比較して

〇・三ポイント下がった（平成二十五

年度末は六・二%、同二十四年度末は七・九%）。

- ③ 当期収支差額は、当初予算10万円に対して、マイナス59万5195円となった。この理由としては、例会日と悪天候が重なる日が多く、例会費収入が減ったこと等があげられる。

〈平成二十八年三月三十一日現在〉
☆会費納入見込み会員数：三百四十名
一般：二百八十四名 地方：五十六名
☆会費納入者数：三百十五名（会費納入率九二・六%）
一般：二百六十四名 地方：五十一名

〈平成二十八年事業計画・活動予算（案）〉

- ① 年会費収入、例会費収入、広告費収入等の収入額に対応した支出の予算管理の徹底を図り、財産基盤が損なわれな

いよう、収支差額予算を達成する。

- ② 当会資産の運用、活用方法について協議し、使途などを提案する。

③ 当会の改革のあり方、大学支援の方法などについて提案する。

④ 内部管理のあり方について提案する。

【活動予算】 10万円

〈平成二十八年度収支予算（案）〉

- ① 収入の部では、年会費収入は昨年度の実績とほぼ同じで、一般二百七十名、地

方：五十一名

方：五十六名

率九二・六%

率九二・六%

率九二・六%

率九二・六%

方五十名、新入会員入会金分を二十五名とし、昨年度と同じ1475万円とした。例会費収入は昨年より多く見積もっているが、これは先ほど専務理事の話にもあったように例会をすべて夜開催とし、うち四回を百名、一回を九十名と見込んでいる。広告費収入と雑収入は、昨年と同額とし、当期収入計は1802万円と微増になっている。当会のような会では、収入の確保が大切であり、特に例会費の部分で予算と実質との間に乖離が見られるようなので、例会にはできる限り出席して欲しいと思う。

② 支出の部では、総務費は家賃共益費・人件費・事務通信費・消耗品費は昨年と同じだが、印刷費と雑費を各10万円ずつ減らし、527万円での予算とした。事業費は先ほど各委員長から計上された数字とし、全体では昨年度より25万円増となっている。

第三号議案については、全員異議なく承認された。

議事録署名人 環 昭二
 議事録署名人 中川 敏洋

平成28年度 連合駿台会 活動基本方針

「より多くの明大の卒業生が、他大学にはない特別の愛校心を抱けるよう、オール明治の団結と絆を深めるためのリーダー的役割を果たす」

1

【各種事業の実施】

会員の知識を広く深め、相互に交換し、会員の社会的地位の向上と社会への貢献を図るため、講演会・セミナーの開催、ボランティア活動等社会貢献の実施、親睦会の開催等、各種事業を実施する。

2

【大学の発展への寄与と連携強化】

大学の教育と学術研究の発展に寄与するため、学術奨励表彰を行うと共に、学生の講演会への招待・啓蒙および国際人養成支援等を実施する。また大学がすすめる知的資産の運用やビジネスインタナシップ制度、グローバル化推進に連携して取り組む。さらに、適宜、大学への提言を行う。

3

【ネットワークの構築】

校友関係組織の中で、本会を名実ともに存在感のある会として発展させるため、幅広いネットワークの構築に努める。

4

【幅広い世代による運営】

会員増強を一層強力に進め、特に若年会員の勧誘にも力を入れ、会員年齢構成をバランスのとれたものにし、企業交流を通じて会の活性化を図る。

平成27年度 連合駿台会 収支計算書

自:平成27年4月1日

至:平成28年3月31日

(単位:円)

収入の部				実績摘要 (収入の部)
勘定科目	予算額	実績	予算比	
年会費収入	14,750,000	14,272,676	96.8%	(一般)270名、(地方)50名(新入会員入会金)25名×@30,000=750,000円
例会費収入	2,340,000	1,992,000	85.1%	(夜例会)…4回(110名×3×@5,000円+90名×1×@5,000円)=2,100,000円 (昼例会)…1回(80名×1×@3,000円)=240,000円
広告費収入	800,000	680,000	85.0%	名刺広告代 @10,000円×56件=560,000円 @30,000円×4件=120,000円
雑収入	20,000	13,146	65.7%	預金利息/MMF利息など
当期収入計	17,910,000	16,957,822	94.7%	
前期繰越収支差額	42,396,957	42,396,957	100.0%	
当期収入合計	60,306,957	59,354,779	98.4%	
支出の部				実績摘要 (支出の部)
勘定科目	予算額	決算額	予算比	
I. 総務費				
(1) 家賃共益費	620,000	618,000	99.7%	紫紺館事務所家賃
(2) 人件費	2,200,000	2,173,000	98.8%	事務局関連業務委託費及び会報発行業務費
(3) 事務通信費	1,000,000	1,075,697	107.6%	電話代(約150,000円)/例会資料等発送費(約600,000円)/振込手数料他(約320,000円)
(4) 備品消耗品	400,000	572,744	143.2%	文具代(約300,000円)/発送用封筒・会員ネーム札作成代(約160,000円)/パソコン購入代(約110,000円)
(5) 印刷費	750,000	645,869	86.1%	事務局コピー機リース代(約200,000円)/コピー印刷・用紙代(約450,000円)
(6) 雑費	500,000	504,590	100.9%	事務局交通費等(約400,000円)/印紙代(約60,000円)/資料代(約10,000円)/その他修理費等(約30,000円)
総務費計(I)	5,470,000	5,589,900	102.2%	
II. 事業費				
1.各委員会運営費				
(1) 総務・事業委員会費	6,300,000	6,854,139	108.8%	例会費・忘年会費・講師謝礼等(約4,850,000円)/運営委員会・新会員歓迎会・正副会長会費(約720,000円)/名簿代(約380,000円)各種事業費・委員会費・諸経費等(約900,000円)
(2) 組織・会員増強委員会費	300,000	134,100	44.7%	若手会費(84,000円)/委員会費(50,100円)
(3) 広報委員会費	2,140,000	2,183,640	102.0%	会報発行費(1,730,000円)/HPの維持・管理費(約350,000円)/委員会費(約100,000円)
(4) 大学支援委員会費	3,300,000	2,612,638	79.2%	学術賞・奨励賞賞金+副賞・お土産(約1,280,000円)/寄付講座懇親会(約165,000円)/大学諸行事補助金(550,000円)/委員会費(17,000円)
(5) 財務委員会費	100,000	0		※内600,000円は平成28年4月6日支出
各委員会運営費計	12,140,000	11,784,517	92.1%	
2.その他事業費				
(1) 慶弔費	100,000	178,600	178.6%	
その他事業費計	100,000	178,600	178.6%	
事業費計(II)	12,240,000	11,963,117	97.7%	
III. 予備費 (III)	100,000	0		
当期支出合計(I+II+III)	17,810,000	17,553,017	98.6%	
当期収支差額	100,000	△ 595,195		
次期繰越収支差額	42,496,957	41,801,762	98.4%	

平成27年度 連合駿台会 正味財産増減計算書

自:平成27年4月1日

至:平成28年3月31日

(単位:円)

科 目	金 額
I 一般正味財産増減の部 (当期一般正味財産増減額)	
当期収支差額	△595,195
一般正味財産期首残高	42,396,957
一般正味財産期末残高	41,801,762
II 有志正味財産増減の部	
当期有志正味財産増減額	0
有志正味財産期首残高	18,000,000
有志正味財産期末残高	18,000,000
III 正味財産期末残高	59,801,762

平成27年度 連合駿台会 貸借対照表

平成28年3月31日現在

(単位:円)

資産の部		負債・正味財産の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
(流動資産)	60,401,632	(流動負債)	610,170
小口現金	186,527	源泉預り金	10,170
みずほ銀行・普通預金	4,156,976	未払金	600,000
ゆうちょ銀行・普通預金	5,594,328	(正味財産)	59,801,762
みずほ銀行・定期預金	38,000,000	1. 有志寄付金	18,000,000
M. M. F.	12,463,801	2. 次期繰越収支差額	41,801,762
(固定資産)	10,300	(うち 当期正味財産増加額)	(△595,195)
電話加入権	10,300		
資産合計	60,411,932	負債・正味財産合計	60,411,932

平成27年度 連合駿台会 財産目録

平成28年3月31日現在

(単位:円)

科 目	金 額		
1. 資産の部			
(1) 流動資産			
小口現金	186,527		
みずほ銀行・普通預金	4,156,976		
ゆうちょ銀行・普通預金	5,594,328		
みずほ銀行・定期預金	38,000,000		
M. M. F.	12,463,801		
流動資産合計		60,401,632	
(2) 固定資産			
電話加入権	10,300		
固定資産合計		10,300	
資 産 合 計			60,411,932
2. 負債の部			
(1) 負債の部			
未払金	600,000		
源泉預り金	10,170		
流動負債合計		610,170	
負 債 合 計			610,170
正 味 財 産			59,801,762

平成28年度 例会日程予定表

年	月日	開始時刻	会場	講師	備考
平成28 (2016)	7月20日(水)	18:00	明治大学 「紫紺館」	ジャーナリスト・評論家 田原 総一郎	暑気払い
	9月21日(水)	18:00	明治大学 「紫紺館」	調整中	
	11月16日(水)	18:00	明治大学 「紫紺館」	未定	忘年会
平成29 (2017)	1月中旬~下旬	17:30	明治大学 詳しい会場は未定	学術賞受賞者 記念講演	駿台懇話会
	3月15日(水)	18:00	明治大学 「紫紺館」	未定	
	5月19日(金)	18:00	明治大学 「紫紺館」	講演なし	総会

平成28年度 連合駿台会 収支予算

自:平成28年4月1日

至:平成29年3月31日

(単位:円)

収入の部		摘要(収入の部)
勘定科目	予算額	
年会費収入	14,750,000	* (一般) 270名 × @50,000円 = 13,500,000円、(地方) 50名 × @10,000 = 500,000円 (新入会員入会金) 25名 × @30,000 = 750,000
例会費収入	2,450,000	* (夜例会) 5回 …(100名 × 4回 × @5,000) + (90名 × 1回 × @5,000) = 2,450,000円
広告費収入	800,000	
雑収入	20,000	* 預金利息/MMF利息
当期収入計	18,020,000	
前期繰越収支差額	41,801,762	
当期収入合計	59,821,762	
支出の部		摘要(支出の部)
勘定科目	金額	
I. 総務費		
(1) 家賃共益費	620,000	* 紫紺館事務所家賃
(2) 人件費	2,200,000	* 事務局関連業務委託費及び会報発行業務費
(3) 事務・通信費	1,000,000	* 電話代/例会資料等発送費/振込手数料 他
(4) 備品消耗品	400,000	* 発送用封筒代/文具代/会員ネーム札作成代 他
(5) 印刷費	650,000	* 事務局コピー機リース代/コピー用紙代 他
(6) 雑費	400,000	* 事務局交通費/資料代 他
総務費計(I)	5,270,000	
II. 事業費		
1. 各委員会運営費		
(1) 総務・事業委員会費	6,300,000	例会費・講師等謝礼(4,500,000円)/正・副会長費、運営委員会費(550,000円)/名簿発行費(400,000円)/各種事業費(700,000円)/諸経費((150,000)
(2) 組織・会員増強委員会費	300,000	新入会員定着活動費(150,000円)/会員増強活動費(150,000円)
(3) 広報委員会費	2,340,000	会報発行費(1,680,000円)/HPの維持・管理費(360,000円)/入会案内パンフレットリニューアル費(200,000円)/広報活動委員会費((100,000)
(4) 大学支援委員会費	3,350,000	学術賞・奨励賞賞金+副賞ほか(1,500,000円)/寄付講座、ほか経費(750,000円)/留学生支援(500,000円)/大学行事協賛金(550,000円)/委員会費(50,000)
(5) 財務委員会費	100,000	委員会費(100,000円)
各委員会運営費計	12,390,000	
2. その他事業費		
(1) 慶弔費	100,000	
その他事業費計	100,000	
事業費計(II)	12,490,000	
III. 予備費 (III)	100,000	
当期支出合計(I+II+III)	17,860,000	
当期収支差額	160,000	
次期繰越収支差額	41,961,762	

連合駿台会 運営組織表



会長就任のご挨拶



連合駿台会新会長
田村 駿

母校明治大学は、本年一月創立一三五周年を迎えました。この節目の年に伝統ある「連合駿台会」の新会長に推され就任いたしますことは、誠に名誉なことであり、その重責に身の引き締まる思いです。山口前会長は、六年前に河野典男前会長の後を引き受けていただきましたが、人格、品格はもとより当会に対する熱意と卓越したリーダーシップは、追隨を許さず、この間の功績は輝かしいものがあり、後任として見習うべきものと考えております。心よりご慰労申し上げますと共に感謝申し上げます。今後は歴代会長の基本方針を踏襲しながら会員同士の更なる親睦と母校発展のため支援すべく会を運営していきたいと考えております。

現在の明治大学は、十年連続十万人超の一般入試志願者数の数値が示す通り、高校生はもろろん社会からも大変高い評価を得ているといっても過言ではないと思います。しかしながら、二〇一一年に策定された「学校法

人明治大学長期ビジョン」の具現化に向け二〇一四年には中期計画（第一期）を策定し、鋭意推進中ではありますが、大学を取り巻く環境は二〇一八年から始まる十八歳人口の再減少問題、入学定員管理の厳格化そしてグローバル化への競争的環境への早期対応などの外的要因、内にあつては、健全な財務基盤の充実・強化、多摩テック問題など内外共に大学経営の喫緊の課題が山積しております。

「連合駿台会」は経済界、法曹界を始め各界を代表する有志の集まりです。活動基本方針に沿って、会員間の更なる親睦を図るとともに、母校の置かれた現状を十二分に理解し、トップユニバーシティである母校明治大学の更なる発展のため、会員の皆様と共に支援していきたいと考えております。

会員の皆様のご理解と積極的なご協力を心からお願ひいたしましたして、会長就任挨拶とさせていただきます。

◆新入会員ご紹介

前回までの理事会で承認され、入会された方をご紹介します。（敬称略・当着順）



かわい 利樹
昭和六十二年・経営学部卒
東京エレクトロン(株)
代表取締役社長兼CEO
神奈川県横浜市在住



たぐち ゆきたか
田口 幸隆
昭和四十八年・政経学部卒
アイル・コーポレーション(株)
専務取締役
埼玉県久喜市在住

◆計報

会員の結城康郎氏（昭和四十六年・法卒、結城法律事務所所長）が、平成二十八年五月三十日に逝去されました。享年六十七歳。ご冥福を心からお祈り申し上げます。

◆明大ニュース

●新理事会が五月十日発足

理事長・学長・六常勤理事・四理事体制に学校法人明治大学は五月九日、評議員会を開催し、新理事長に野村證券(株)元副会長の柳谷孝氏（一九七五年商学部卒）を、新理事に教職員・校友ら十人を選任。四月一日に就任した土屋恵二郎学長（一九七〇年法学部卒）と合わせて、十二人体制の新理事会が五月十日付で発足した。任期はいずれも二〇二〇年三月三十一日まで。

法人役員（理事長・理事・監事）は、「学校法人明治大学寄附行為施行規則」に基づき、評議員十七人で構成される銚衡委員会が候補者を銚衡し、評議員会が選任する。

四月二十六日に開催された銚衡委員会で、

柳谷氏が理事長に、青柳勝榮氏、中里猛志氏、飯田和人氏、中村義幸氏、林義勝氏、大原幸男氏、鈴木利大氏、大田原健司氏、荒川利治氏、田部井茂氏の十人（年齢順）が理事に銓衡され、五月九日の評議員会で選任された。

また、五月十日開催の理事会で、常勤理事五人と所管業務が決定。財務担当に中里理事、経営企画担当に飯田理事、教務担当に中村理事、学務担当に鈴木理事、総務担当に大田原理事がそれぞれ就任した。

さらに同日の理事会では、常勤理事の増員も決定され、五月三十日開催の評議員会で承認。新たに設置された情報担当に荒川理事が六月一日付で就任し、理事長・学長・六常勤理事・四理事の理事会体制が確立した。

●新理事会略歴

五月十日に発足した新理事会を構成する理事長・学長・六常勤理事・四理事の略歴（年齢は同日現在）を以下に掲載する。

理事長 柳谷 孝

一九七五年明治大学商学部卒業。一九七五～五五年野村證券(株)入社。一九九七年同社取締役、二〇〇六年同社副社長、二〇〇八年同社副会長など歴任。昭和産業(株)社外取締役などを務める。六十四歳

学長 土屋 恵一郎

一九七〇年明治大学法学部卒業、一九七七年同大学院博士課程単位取得退学。一九七八年明治大学法学部助手、一九九三年同教授。法学部長、教務担当常勤理事など歴任。六十九歳

財務担当常勤理事 中里 猛志

一九六六年明治大学商学部卒業。公認会計士。朝日監査法人（現・有限責任あずさ監査法人）本部理事など歴任。二〇〇九年中里猛志公認会計士事務所開設。七十二歳

経営企画担当常勤理事 飯田 和人

一九七二年明治大学商学部卒業、一九七七年同大学院博士課程単位取得退学。一九七七年明治大学政治経済学部助手、一九九五年同教授。教務担当常勤理事など歴任。博士（経済学）。六十八歳

教務担当常勤理事 中村 義幸

一九七一年明治大学法学部卒業、一九八〇年同大学院博士後期課程単位取得退学。一九九二年明治大学短期大学教授、二〇〇〇年同短期大学長。情報コミュニケーション学部長、理事など歴任。六十七歳

学務担当常勤理事 鈴木 利大

一九七二年明治大学政治経済学部卒業、一九七九年同大学院博士後期課程単位取得退学。一九七九年明治大学政治経済学部助手、一九九〇年同教授。政治経済学部長など歴任。六十六歳

総務担当常勤理事 大田原 健司

一九七六年明治大学政治経済学部卒業。二〇〇二年高等学校・中学校事務長、二〇〇六年付属校移転推進室事務長兼務、二〇〇八年専門職大学院事務長、二〇一〇年募金室長、二〇一三年教育支援部長。参事。六十二歳

情報担当常勤理事 荒川 利治

一九七七年明治大学工学部卒業、一九八三年同大学院博士後期課程中途退学。一九八三年明治大学工学部助手、二〇〇五年同理工学部教授。理工学部長など歴任。博士（工学）。六十一歳

理事 青柳 勝榮

一九六六年明治大学経営学部卒業。一九六六年(株)理経入社。同社常務取締役、事業統括本部長、代表取締役社長など歴任。二〇一二年 Blue Green Group (株)設立・代表取締役社長。七十四歳

理事 林 義勝

一九七二年南山大学外国語学部卒業、一九八〇年カリフォルニア大学大学院博士課程単位取得。一九八三年明治大学文学部講師、一九九二年同教授。文学部長、図書館長など歴任。歴史学博士。六十七歳

理事 大原 幸男

一九七四年明治大学商学部卒業。一九八九年 HOYA USA 副社長、一九九四年 HOYA A コンテニウム(株)代表取締役社長、二〇〇〇

七年ペンタックス(株)取締役など歴任。現在日
OYAサービス(株)代表取締役社長。六十六歳
理事 田部井 茂

一九七九年明治大学文学部卒業。二〇〇
五年学生厚生課長、二〇〇七年体育課長兼
務、同年学生支援事務長、二〇一一年教育支
援部長、二〇一三年経営企画部長、二〇一六
年学生支援部長。参事。五十九歳

●新役職者(五月十九日付)

研究企画推進本部長 土屋 一雄

一九六九年明治大学工学部卒業、一九七
五年同大学院博士課程単位取得退学。一九七
四年明治大学工学部助手、二〇〇〇年同理工
学部教授。研究企画推進本部長など歴任。工
学博士。六十九歳

出版会長 吉田 悦志

一九七一年明治大学文学部卒業、一九八
〇年同大学院博士課程単位取得退学。一九八
〇年明治大学政治経済学部兼任講師、一九九
〇年同教授。二〇〇八年より国際日本学部教
授。副学長(社会連携担当)など歴任。博士
(学術)。六十七歳

●法人役員 新監事に三氏

学校法人明治大学監事に、関根宏一氏、金
子光男氏、佐藤健氏が六月一日付で就任し
た。三氏は四月二十六日に開催された法人役

員候補者の銓衡委員会で監事に銓衡され、五
月九日の評議員会で理事長、理事とともに選
任された。任期は二〇二〇年五月三十一日ま
での四年間。

・関根 宏一

一九六四年明治大学農学部卒業。二〇〇
四年藍綬褒章受章。二〇一五年より明治大学
駿台体育会会長。七十四歳

・金子 光男

一九六七年明治大学政治経済学部卒業。一
九八七年同学部教授。前明治高等学校校長兼中
学校長。名誉教授。七十二歳

・佐藤 健

一九六九年明治大学商学部卒業。ORIX
J-REIT, Inc.社長など歴任。(株)ネクスト常勤
監査役。六十九歳

●副学長に三氏が新たに就任

十一人体制で学長を補佐

学長の職務を補佐する副学長に、吉田悦
志国際日本学部教授(キャンパス整備担当)、
柳沢敏勝商学部教授(スポーツ振興担当)、
浜本牧子農学部教授(男女共同参画・障がい
者少数者支援担当)の三氏が五月十九日付で
新たに就任した。四月一日付で就任した八氏
を合わせて、副学長は十一人体制となった。
任期は、吉田副学長が二〇一九年三月三
十一日まで(定年退職による)。柳沢副学長、

浜本副学長が二〇二〇年三月三十一日まで。

・吉田 悦志

前掲・新役職者経歴参照。

・柳沢 敏勝

一九七四年明治大学商学部卒業、一九八
〇年同大学院博士課程単位取得退学。一九八
〇年明治大学商学部助手、一九九二年同教
授。学生部長、副学長(スポーツ振興担当)
など歴任。六十五歳

・浜本 牧子

一九八〇年山梨大学工学部卒業、一九八
六年東京大学大学院博士課程修了。二〇〇四
年明治大学農学部教授、二〇一一年同教
授。副学生部長(生田担当)など歴任。農学
博士。五十八歳

●顧問に九氏が就任

学校法人明治大学顧問に次の九氏が、五
月三十日に開催された評議員会で選任され、
五月三十一日付で就任した。任期は、任命し
た柳谷孝理事長の任期満了日の二〇二〇年三
月三十一日まで。

・新井 久晴

一九六四年明治大学法学部卒業。元評議員
会議長

・兒玉 圭司

一九五七年明治大学経営学部卒業。元評議
員会議長

・長堀 守弘

一九五九年明治大学文学部卒業。元理事長

・長吉 泉

一九五六年明治大学政治経済学部卒業。元

理事長

・納谷 廣美

一九六二年明治大学法学部卒業。元学長

・日高 憲三

一九六〇年明治大学政治経済学部卒業。前

理事長

・福宮 賢一

一九六九年明治大学商学部卒業。前学長

・向殿 政男

一九六五年明治大学工学部卒業。校友会長

・村山 富市

一九四六年明治大学専門部政治経済科卒

業。元内閣総理大臣、元社会民主党党首。

校友会名誉会長

●教員人事

二学部長を含む新役職者が決定

このたびの役員改選に伴い、空席となつて

いた二学部長が新たに決定した。政治経済学

部長には小西徳應教授が六月二日付で、理工

学部長には久保田寿夫教授が六月十六日付で

それぞれ就任した。以上二氏は、学校法人明

治大学寄附行為第十七条第二項第一号の規定

により、同日付で職務上の評議員となった。

このほか、六月二日付で図書館長に山泉

進法学教授が就任し、鎌田弘之情報基盤本

部長は再任された。任期は、政治経済学部

長、理工学部長がいずれも前任者の残任期間

である二〇一七年三月三十一日、図書館長が

二〇一七年三月三十一日、情報基盤本部長が

二〇一八年三月三十一日まで。

●明大のさらなる発展誓う

新法人役員が創立者墓参

五月に就任した新法人役員および評議員

会正副議長が六月十五日、明治大学創立者三

人の墓参を行った。一行は、岸本辰雄先生と

宮城浩蔵先生が眠る東京・台東区の谷中霊園

と、矢代操先生が眠る東京・港区の青山霊園

を訪れ、明大のさらなる発展に向けて努力す

ることを墓前に誓った。

創立者三人の墓は、明大の創立一二〇周

年記念事業の一環として改修・整備された。

その際、それぞれの墓には顕彰の「墓碑」が

建立され、訪れる人々に「明治大学創立者」

が眠る地であることを知らせている。

●OB社長

▽近鉄エクスプレス(倉庫・運輸関連業・東

証一部) 〓鳥居伸年氏(一九八二年法学

部卒・五十七歳)

▽天馬(化学・東証一部) 〓藤野兼人氏(一

九七五年法学部卒・六十三歳)

▽日本無線(電気機器・東証一部) 〓荒健次

氏(一九七六年政経学部卒・六十二歳)

▽朝日航洋(空運業) 〓尾暮敏範氏(一九八

〇年商学部卒・五十九歳)

▽九州リースサービス(その他金融業) 〓古

賀恭介氏(一九七八年政経学部卒・六十

二歳)

▽京王百貨店(小売業) 〓駒田一郎氏(一九

八〇年商学部卒・五十九歳)

▽京王プラザホテル札幌(サービス業) 〓池

田純久氏(一九八二年法学部卒・五十七

歳)

▽コモンウェルス・エンターテインメント

(卸売業) 〓森田浩章氏(一九九二年経営

学部卒・四十七歳)

▽荘内銀行(銀行業) 〓上野雅史氏(一九八

〇年政経学部卒・五十九歳)

●EU十六カ国・五十九機関が参加

「欧州留学フェア」

日本の大学生や社会人らに向け、ヨーロッパ

留学の魅力発信する「欧州留学フェア2

016」(主催:駐日欧州連合代表部、共催:

明治大学ほか)が六月十二日、駿河台キャン

パス・アカデミーコモンで開催され、会場は

多数の来場者による熱気に包まれた。

二〇一二年にスタートした同フェアは今

年が五回目で、十一日（京都会場・キャンパスプラザ京都）と十二日（東京会場・明治大学）の計二日間実施。東京会場には、初参加となるブルガリアを加えた過去最多のEU加盟国十六カ国が参加し、五十九の高等教育機関などがブースを出展した。

●司法試験（短答式試験）

明大は全国五位の百八十二人合格

法務省は六月二日、二〇一六年司法試験のうち短答式試験（憲法・民法・刑法、五月十五日実施）の結果を発表した。明治大学法科大学院の合格者数は百八十二人で、法科大学院別では昨年と同じく全国五位。合格率は六一・三％だった。総受験者数六千八百九十九人のうち、合格に必要な成績を得た者は四千六百二十一人。合格率は六七・〇％、合格者の平均年齢は三十二・一歳だった。

論文式試験（五月十一、十二、十四日実施）の成績も加えた最終合格者の発表は、九月六日に行われる。司法試験の受験資格は、法科大学院の課程修了、または予備試験の合格により得られる。受験期間は、受験資格取得日後の最初の四月一日から五年間。

●表層メタンハイドレート・フォーラム実施

明治大学研究・知財戦略機構ガスハイドレート研究所は六月二十八日、二〇一三年度

から二〇一五年度の調査成果を報告する表層メタンハイドレート・フォーラム「資源化を目標して」二〇一三～二〇一五年度調査の成果報告」を開催。約二百名が参加した。

ガスハイドレート研究所は、地球表層に広く分布することが判明したガスハイドレートを総合的に調査・研究するため、二〇一二年に明治大学研究・知財戦略機構の研究ユニットとして設立。二〇一三年度からは経済産業省のメタンハイドレート開発促進事業の一部として、（国研）産業技術総合研究所の再委託を受け日本海周辺での資源探索を実施してきた。本フォーラムでは、二〇一三年度から二〇一五年度までの調査成果の報告およびポスターによる研究発表が行われた。

●畠中君代トップアスリート支援基金

二〇一六年度採用者三人に目録贈呈

「畠中君代トップアスリート支援基金」の二〇一六年度奨学生がこのほど決定し、六月十六日、駿河台キャンパス・リバティタワー十三階貴賓室で目録贈呈式が催された。

この基金は、体育会硬式庭球部OG・畠中君代氏（一九六七年文学部卒・連合駿台会会員）の「世界を舞台に活躍する明大生を」という熱い思いから創設されたもの。二〇一〇年の東京五輪をはじめ、国際大会での活躍を目指す明大トップアスリートの支援を目的

としている。二回目となる本年度は、三人のアスリートが採用された。

●2016リオデジャネイロ オリンピック・パラリンピック激励会を開催

明治大学・校友会・駿台体育会は六月十五日、駿河台キャンパス・リバティタワー二十三階岸本辰雄記念ホールで、第三十一回オリンピック競技大会とリオ2016パラリンピック競技大会（第十五回夏季大会）に出場する明治大学関係者（選手・九人、監督・コーチ・五人／六月十五日時点）の激励会を開催した。現役在学学生として唯一出席した、ボードの女子軽量級ダブルスカルの日本代表の富田千愛選手（政経研博士前期課程1年）は、「まだ日本では知名度の低い競技なので、多くの方に知ってもらい、また応援してもらえよう、リオでは全力を尽くしたい」と語り、馬場馬術競技団体で初めて五輪に出場する高橋正直選手（二〇〇四年農卒）は、「明治大学で培った経験を生かし、リオで良い結果を出したい」と、大舞台への意欲を述べた。

●硬式野球部

東京六大学野球・春季リーグ優勝祝勝会

体育会硬式野球部が東京六大学野球春季リーグで三季ぶり三十八回目の優勝を遂げたことを祝し、体育会本部員らによって組織さ

れたパレード実行委員会は六月十六日、優勝祝勝会を駿河台キャンパスで開催した。予定されていた駿河台キャンパス周辺のパレードは雨天のため中止されたものの、リバティタワー前フェニックス広場での簡易パレードと、優勝祝勝会がリバティホールで行われた。優勝祝勝会では、多くの学生・校友・ファインらが訪れ、応援団による「チャンスパターンメドレー」の演奏や校歌斉唱など、神宮球場応援スタンドの熱気がリバティホールに再現。参加者全員で優勝の喜びを分かち合った。

●ラグビー部

「北島ラグビー祭」を開催

体育会ラグビー部主催の「北島ラグビー祭」が六月五日、八幡山グラウンド（東京都世田谷区）で開催され、ラグビースクールから約三百人の子供たちが参加し、元気いっぱいイベントを楽しんだ。

北島ラグビー祭は、ラグビー部の礎を築いた故・北島忠治監督の遺志を受け継いだ部員やスタッフ、OBらが、青少年へのラグビー普及や地域社会との交流を目的に毎年開催しているもの。今年は北島氏の没後二十周年を迎える。ラグビークリニックでは、部員が子供たちにタグラグビーなどを指導。重戦車のスクラム体験では、その圧力に歓声が上がった。クリニック後には子供同士の試合も

行われ、全力プレーで観客を沸かせた。

◆五月総会出席者

青木幹則、青柳勝榮、秋山隆敬、坪昭二、浅井宏、浅倉晴司、阿部倫明、池田一義、池田勝也、石川かおり、石橋良一、石原道勝、石原裕司、伊東正博、伊原敏雄、上西紘治、宇川一夫、潮田伊佐夫、宇敷和章、梅津章、大石哲也、大野正美、大原幸男、大村託現、勝俣正義、金子圭太、栢森靖、荻部彰夫、河合秀二郎、河村博、清末法弘、小谷野正道、小山修、小山有彦、根田哲雄、根田吉雄、齋藤柳光、坂田英夫、佐藤和正、佐藤健、眞田瞳、志田憲彦、甚野捷、杉浦伸二、関孝夫、関根均、相臺志浩、高橋郁夫、武内裕、武田宣夫、谷原誠、田村駿、当山明彦、徳丸平太郎、富水流孝二、中川敏洋、長堀守弘、中村豊、並木洋一、西崎誠次郎、西澤豊、西山武夫、野口昌宏、橋口隆二、長谷川進一、畠中君代、幡谷君朗、八丁地園子、羽生健一郎、馬場範夫、原田榮、樋口郁夫、福田和彦、藤代耕一、藤巻伴英、前川一郎、楨野泰、松崎優子、摩尼和夫、宮下隆、向井眞一、村岡健、室井恵明、山上雅隆、山口政廣、山田朝彦、山田勝、弓野理恵、義江邦夫

〈ご来賓〉柳谷孝明治大学理事長

【編集後記】

齢を重ねると何かと節目がからんでくる。先ごろ機会を得て佐世保市の浦頭（うらがしら）という小さな港を訪れた。実に七十年ぶりだった。そこは、満州生まれの私が一才三ヶ月で初めて踏んだ。母国、日本だった。感慨も深く、上陸後に故郷埼玉への列車を待つために数週間も過ごしたという引き揚げ援護局の跡地を探すと、驚いた。今はあのハウステンボスになっている。

最近、今度はアジア研究会というサークルの仲間と五十年前の話題で盛り上がった。一九六六年、明治大学東南アジア親善踏査隊として各国を行脚して学生と三ヶ月余にわたって交流した思い出である。1万円三百六十円、ベトナムは既に戦時下だった。心もとない資金やコネづくりのために政財界で活躍する母校の先達に協力をお願いして回った。

快くバックアップしてくださった方々の中での一番に飛び出してきたお名前が、宮森和夫丸善石油社長だった。ご存じのように、わが連合駿台会の前身で六十三年前に誕生している若水クラブの三代目会長でいらっしゃる。今も大学支援の柱になっている学術賞は宮森さんなどが奔走された基金で始まったともうかがっている。当時の諸先輩の熱い母校愛のおかげで、かけがえない体験ができたのだ。

節目といえば、若水クラブと明友クラブの統合で設立された連合駿台会も、この七月から田村駿五代目会長のもと十五年目に入る。明治大学も今年が創立一三五年だ。一八八一（明治十四）年に開校した明治法律学校に入り一年後に卒業した一期生はわずか二十人だったという。以来、五十四万人余の校友を輩出、今春は七千二百八十三人も巣立っていった。私たちが母校から求められるものはますます大きくなることだろう。かつての自分の果報を思い起し、身が引き締まる。

（斎藤 柳光）